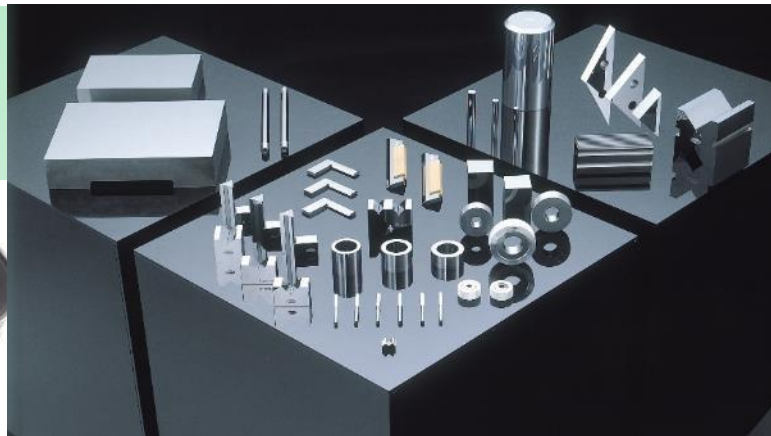


2024年3月期決算/中期経営計画 補足説明資料

富士ダイス株式会社

モノづくりを通じて広く社会に貢献する



2024年5月30日

1. 会社概要	P.02
2. 2024年3月期 業績概要	P.08
3. 新中期経営計画 (2025年3月期～2027年3月期)	P.16
4. 2025年3月期 業績見通し	P.31
5. APPENDIX	P.37

0 1

会社概要

会社概要（2024年5月現在）

商号	富士ダイス株式会社
所在地	東京都大田区下丸子二丁目17番10号
資本金	164百万円
代表者	代表取締役社長 春田 善和
創業	1949年6月
事業目的	超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造販売
連結子会社	新和ダイス株式会社 富士シャフト株式会社 FUJILLOY (THAILAND) CO., LTD. 富士模具貿易（上海）有限公司 PT. FUJILLOY INDONESIA FUJILLOY INDIA PRIVATE LIMITED FUJILLOY MALAYSIA SDN. BHD.
従業員数	1,106名（2024年3月期末時点、連結）

当社の特長

超硬耐摩耗工具市場でトップシェア

国内超硬耐摩耗工具業界では当社は長期に亘り、トップシェアを堅持
多品種少量の高付加価値製品の販売が主で、販売価格は安定して推移

業界シェア
30%以上

開発力-生産技術力-営業力が競争力の源泉

お客さまの個別ニーズをカスタマイズできる直販体制
幅広い業種との安定かつ多くのお客さまとの取引実績
設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査までの一貫生産体制

取引社数
約3,000社

長期的成長を担う高い研究開発力（技術力）

粉末冶金技術を活かし、市場ニーズに応える新材料の開発技術
人手による技術を新鋭設備研究と工法最適化による現行技術との融合

コア技術
・粉末冶金技術
・超精密加工技術

財務基盤：黒字経営を継続し、高い自己資本比率を維持

ネットキャッシュ	7,346百万円
フリーキャッシュフロー	63百万円

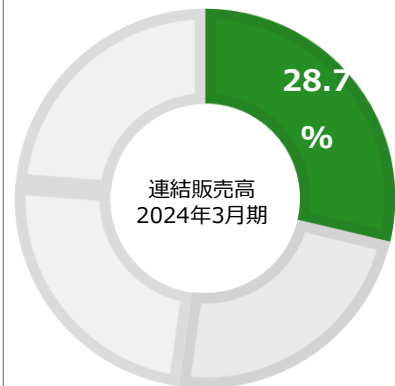
自己資本比率
79.0%
(2024年3月末時点)

(2024年3月期末)

事業内容 製品区分

■ 超硬合金製を中心とした工具・金型（耐摩耗工具）製造に特化

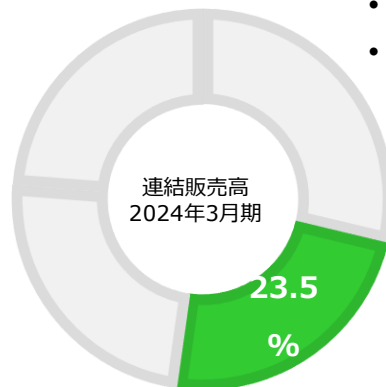
超硬製工具類



- ダイス、プラグ
- 溝付きプラグ
- 熱間圧延ロール
- 超高压発生用工具 等



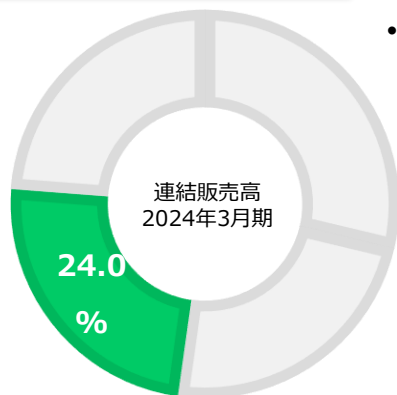
超硬製金型類



- 自動車部品製造用
- 製缶用
- 電池関連用 等



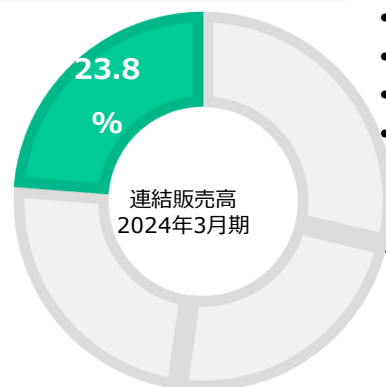
その他の超硬製品



- 超硬合金素材
- 半導体製造装置用部品 等



超硬以外



- 鋼製品
- KF2製品
- セラミックス製品
- ダイヤモンド研削砥石
- FHR製品
- 銅タン
- NFメタル
- 引抜鋼管 等



拠点 (2024年3月末時点)

【国内】

- ★生産・営業拠点 5ヶ所
- 生産拠点 2ヶ所
- ★営業拠点 5ヶ所

【海外】

- ★生産・営業拠点 2ヶ国
(タイ・インドネシア)
- ★営業拠点 3ヶ国
(中国・マレーシア・インド)



マレーシアおよび近隣国での営業活動を強化

- 2024年4月1日に、マレーシア現地子会社であるフジロイ・マレーシア（FUJILLOY MALAYSIA SDN. BHD.）の営業活動の中心を従来のペナン事務所からクアラルンプール事務所へ移し、活動範囲の拡大を目指す。
- ペナン事務所では半導体関連顧客をメインに営業活動をしてきたが、EV関連などの新規顧客の獲得を目指し、クアラルンプール事務所の営業を強化する。
- ペナン事務所も今までどおり営業活動を継続し、クアラルンプール事務所との2拠点でマレーシアのみならず近隣国も含めて営業活動を拡大、二次電池やモーターコアなどの次世代自動車関連製品の受注増加を狙う。



【フジロイ・マレーシア クアラルンプール事務所が入居する建物外観とオフィス入口】

02

2024年3月期 業績概要

2024年3月期 累計期間 総括

連結売上高 16,678百万円 (前年同期比-2.9%)

連結営業利益 809百万円 (前年同期比-29.7%)

- 売上高は前年同期比で減少
- 売上高の減少、熊本冶金棟建設に伴う一時的な費用増の影響を受け減益

売上高	増加要因	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外向け溝付きロール、鋼管用ダイス・プラグの需要増 ■ モーターコア用金型の需要増 ■ 半導体製造装置向けの需要増 ■ 原材料、電力燃料等の高騰に伴う価格改定
	減少要因	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中国の経済停滞に伴う需要減 ■ 自動車部品関連金型の回復遅れに伴う需要減 ■ 二次電池向け金型、引抜鋼管の需要減
利益	増加要因	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生産性向上・業務効率化の施策に一定の成果 ■ 原材料、電力燃料等の高騰に伴う価格改定
	減少要因	<ul style="list-style-type: none"> ■ 連結売上高減少に伴う利益減少 ■ 熊本製造所の冶金棟建設に伴う一時的な費用増

2024年3月期 連結業績サマリー

(単位：百万円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	前期増減率	2024年3月期 業績予想	業績予想 進捗率
売上高	17,179	16,678	-2.9%	17,800	93.7%
営業利益	1,150	809	-29.7%	1,170	69.2%
(営業利益率)	(6.7%)	(4.9%)	(-1.8%)		
経常利益	1,225	882	-28.0%	1,230	71.7%
(経常利益率)	(7.1%)	(5.3%)	(-1.8%)		
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,292	709	※ -45.1%	890	79.7%
(当期純利益率)	(7.5%)	(4.3%)	(-3.2)		
1株当たり 当期純利益	65.19円	35.72円	-45.2%	44.87円	-
自己資本比率	77.7%	79.0%	-		

※前期における固定資産（土地）の譲渡益の反動減

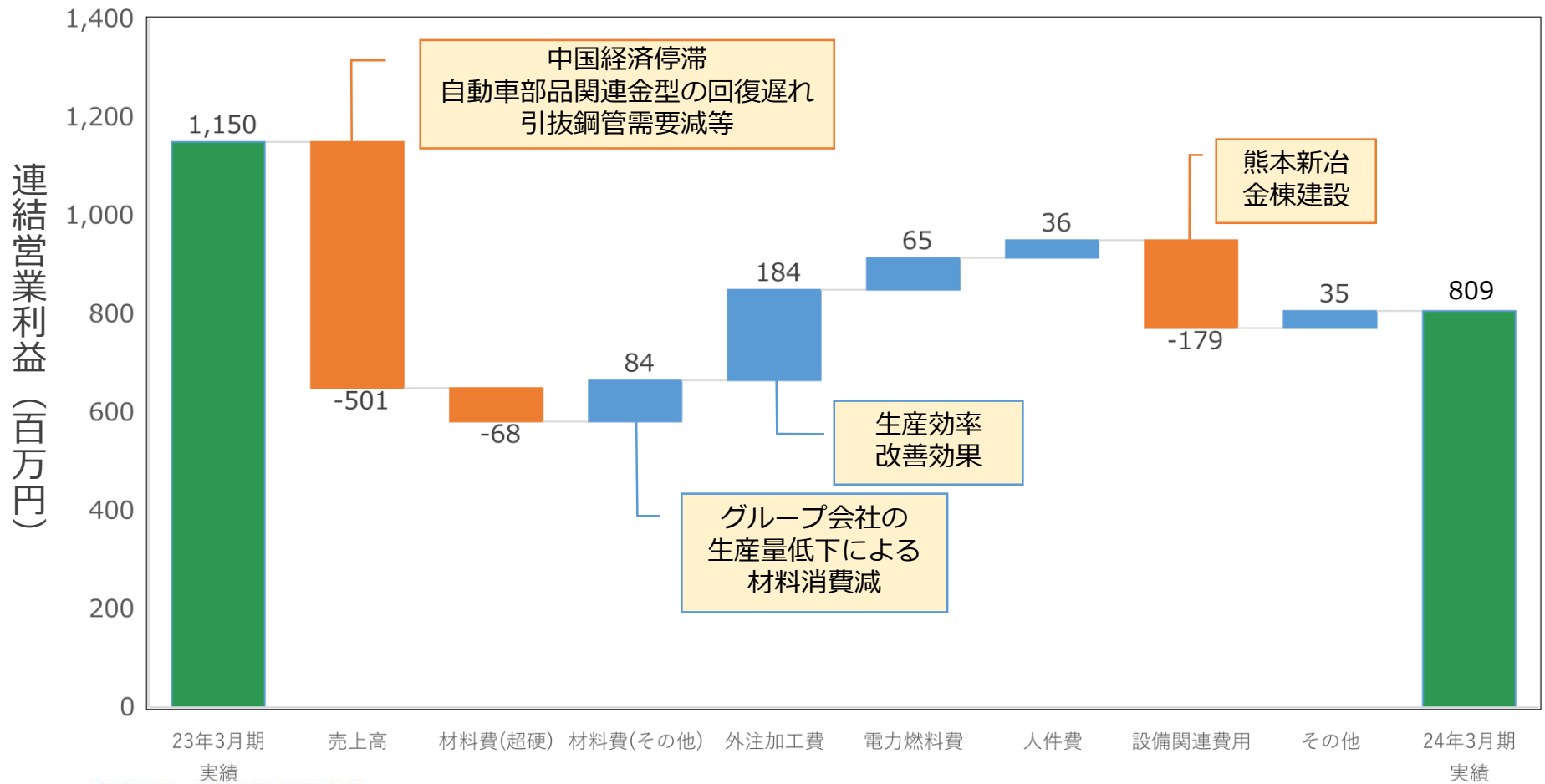
(百万円未満 切り捨て)

2024年3月期 連結営業利益 増減要因（前年同期比）

営業利益

生産性向上・業務効率化の施策の効果等はあったものの、
売上高の減少や熊本冶金棟建設に伴う一時的な費用増の影響を
受け減益

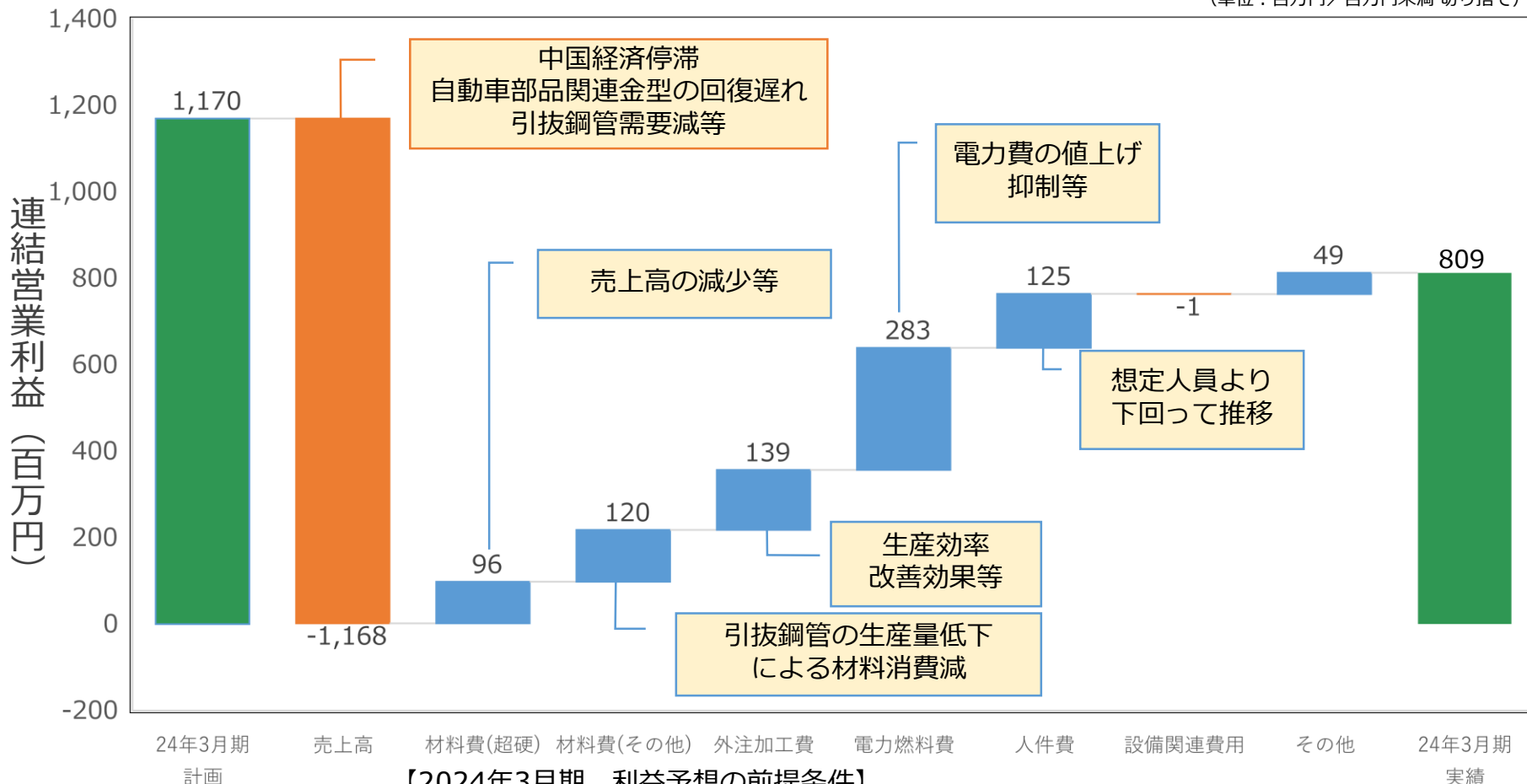
(単位：百万円/百万円未満 切り捨て)



2024年3月期 連結営業利益 増減要因（予想比）

営業利益：予想比▲361百万円

(単位：百万円/百万円未満 切り捨て)



【2024年3月期 利益予想の前提条件】

①APT(パラタングステン酸アンモニウム) 価格：335ドル/10kg

②為替：130円/米ドル



2024年3月期 財務の状況 連結貸借対照表 増減分析

- 受取手形が209百万円、原材料及び貯蔵品が226百万円減少したこと等により、流動資産は700百万円減少
- 建設仮勘定が1,172百万円減少したものの、建物及び構築物が1,413百万円、機械装置及び運搬具（純額）が198百万円増加したことにより固定資産は585百万円増加

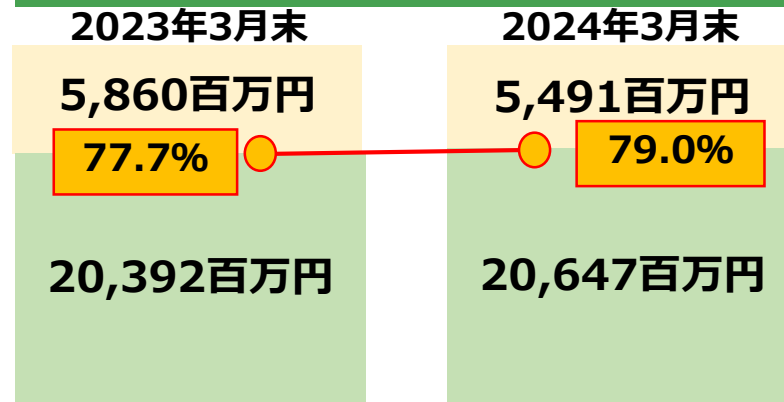
財務状況

2024年3月末 ※（ ）は2023年3月末との差

資産 26,138百万円 (-114百万円)	負債 5,491百万円 (-369百万円)
	純資産 20,647百万円 (254百万円)

単位：百万円	2023年3月末	2024年3月末
流動資産	15,724	15,024
固定資産	10,528	11,114
資産合計	26,253	26,138
流動負債	4,197	3,871
固定負債	1,662	1,619
負債合計	5,860	5,491
純資産合計	20,392	20,647

負債・純資産・自己資本比率



■ 負債 ■ 純資産 ● 自己資本比率

現金及び預金	6,381百万円
原材料及び貯蔵品	1,294百万円
建物及び構築物（純額）	5,012百万円
短期借入金	35百万円
長期借入金	-百万円
退職給付に係る負債	1,561百万円
利益剰余金	19,896百万円
その他包括利益累計額	669百万円

(百万円未満 切り捨て、自己資本比率は小数点第2位を四捨五入)

2024年3月期 キャッシュ・フロー計算書

営業CF：税金等調整前当期純利益（995百万円）・減価償却費（988百万円）
投資CF：有形固定資産の取得（-1,718百万円）
財務CF：配当金の支払い（-634百万円）

(単位：百万円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	増減
営業活動によるCF	775	2,050	1,275
投資活動によるCF	-712	-1,656	-944
フリーCF	62	394	331
財務活動によるCF	-453	-651	-198

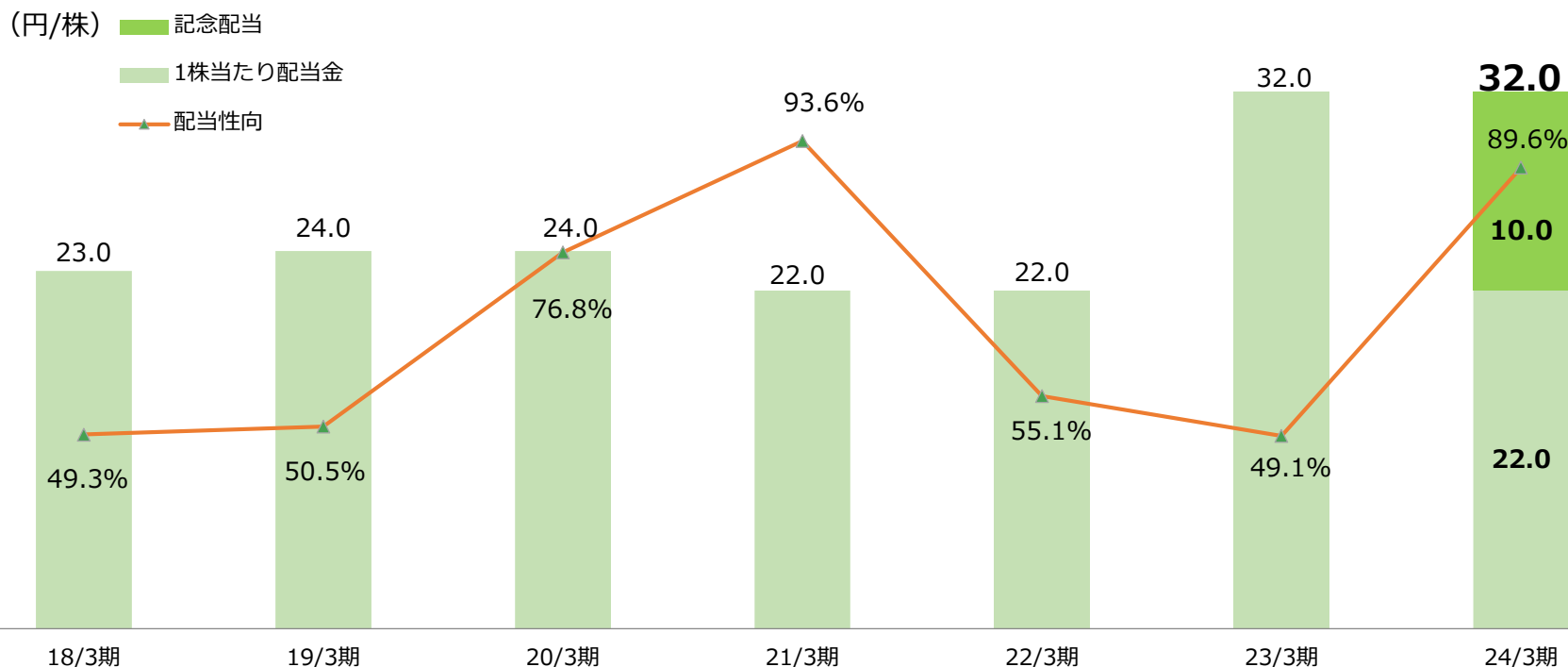
(百万円未満 切り捨て)

2024年3月期 株主還元・配当

・ 2024年3月期は1株当たり32円
(普通配当22円+記念配当10円)
【期初計画から10円増配】

年間配当金
32円

2024年6月6日に創業75周年を迎えるにあたり、1株当たり10円の記念配当を実施



03

新中期経営計画
(2025年3月期～2027年3月期)

前中期経営計画 重点施策の総括と成果

2022年3月期-2024年3月期の中期経営計画の重要施策の総括は以下のとおり

生産性向上
業務効率化



- ・熊本製造所 冶金棟をリニューアル、本格稼働
- ・岡山製造所に新CIP装置を導入
- ・郡山製造所の冶金作業に自動化ロボットを導入
- ・加工条件を最適化するとともに標準化することで、作業効率を向上

次世代自動車
への対応・拡販



- ・電磁鋼鉄の抜き金型において、モーターコア金型用新素材【フジロイVG48】の市場での認知が広がり採用顧客を拡大
- ・車載電池用金型については中計2年目までは順調に売上を拡大したものの、顧客の生産地変更により大幅に減少
- ・EV用制動装置関連金型などの拡販を推進

新成長エンジンの
創出



- ・高性能レンズ成型に適した高熱膨張合金【フジロイTR05・TR30】の販売を本格化
- ・2023年11月に郡山製造所に先端加工開発部を新設
- ・新材種、製品開発のスピードアップと、開発品の拡販が課題

海外事業の強化



- ・2023年7月に海外事業本部を設立、担当役員を擁立
- ・2024年3月に中国の東莞に新たな営業所を開設
- ・海外売上高は中国市場の停滞により減少
- ・海外売上高比率は2年目までは19.8%と順調に推移したが、最終年度は中国市場の停滞により18.7%で着地

中期経営計画（2022年3月期-2024年3月期）振り返り（業績指標）

- 2022年3月期、2023年3月期は目標数字を達成し計画どおり進捗。
- 2024年3月期は、中国経済の停滞や自動車部品メーカーの在庫調整等により、素材や金型の販売が低調に推移したことおよび、資源高による調達コストの増加等から、業績指標はいずれも計画を下回った。

	2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期	
	計画	実績	計画	実績	計画※	実績
売上高	156億円	168億円	163億円	171億円	170億円	166億円
営業利益	5.6億円	11.1億円	10.5億円	11.5億円	14.9億円	8.1億円
経常利益率	3.9%	7.1%	6.8%	7.1%	9.1%	5.3%
経常利益	6.1億円	12.0億円	11.0億円	12.3億円	15.5億円	8.8億円
当期純利益	3.8億円	7.9億円	7.8億円	12.9億円	10.9億円	7.1億円
ROE	2.0%	4.1%	4.2%	6.5%	5.7%	3.5%

※2021年6月発表当時の計画値

当社グループを取り巻くビジネス環境と対処すべき課題

ビジネス環境

機会

- ・ サステナブル社会実現要請の高まり
 - ▷ 脱炭素社会への移行
(次世代自動車への転換を含む)
 - ▷ 自然環境（資源・生物多様性等）の保護
 - ▷ 人的資本経営
- ・ DX技術の進展、社会実装の加速

脅威

- ・ 日本の人口減少、高齢化、慢性的な低成長
- ・ 資源価格高騰、世界的なインフレ
- ・ 原料調達リスクの高まり
- ・ 地政学的リスクの高まり

対処すべき課題

変化に対応できる企業体質への転換

- ・ 人財の確保、育成
- ・ 顧客の「変化」の見える化
- ・ 生産性向上（業務効率の向上）
- ・ 持続可能な資源の有効活用
- ・ 将来の成長基盤の育成
(新製品・新材料・新技術)
- ・ 新規市場の開拓
(新分野・海外)
- ・ 資本効率を意識した経営

中期経営計画2026

中期経営計画2026のコンセプト

変化に対応できる企業体質への転換

① 経営基盤の強化

② 生産性向上
業務効率化

③ 海外事業
の飛躍

④ 脱炭素・循環
社会への貢献

⑤ 新事業の確立

既存事業領域

新規事業領域

利益率向上

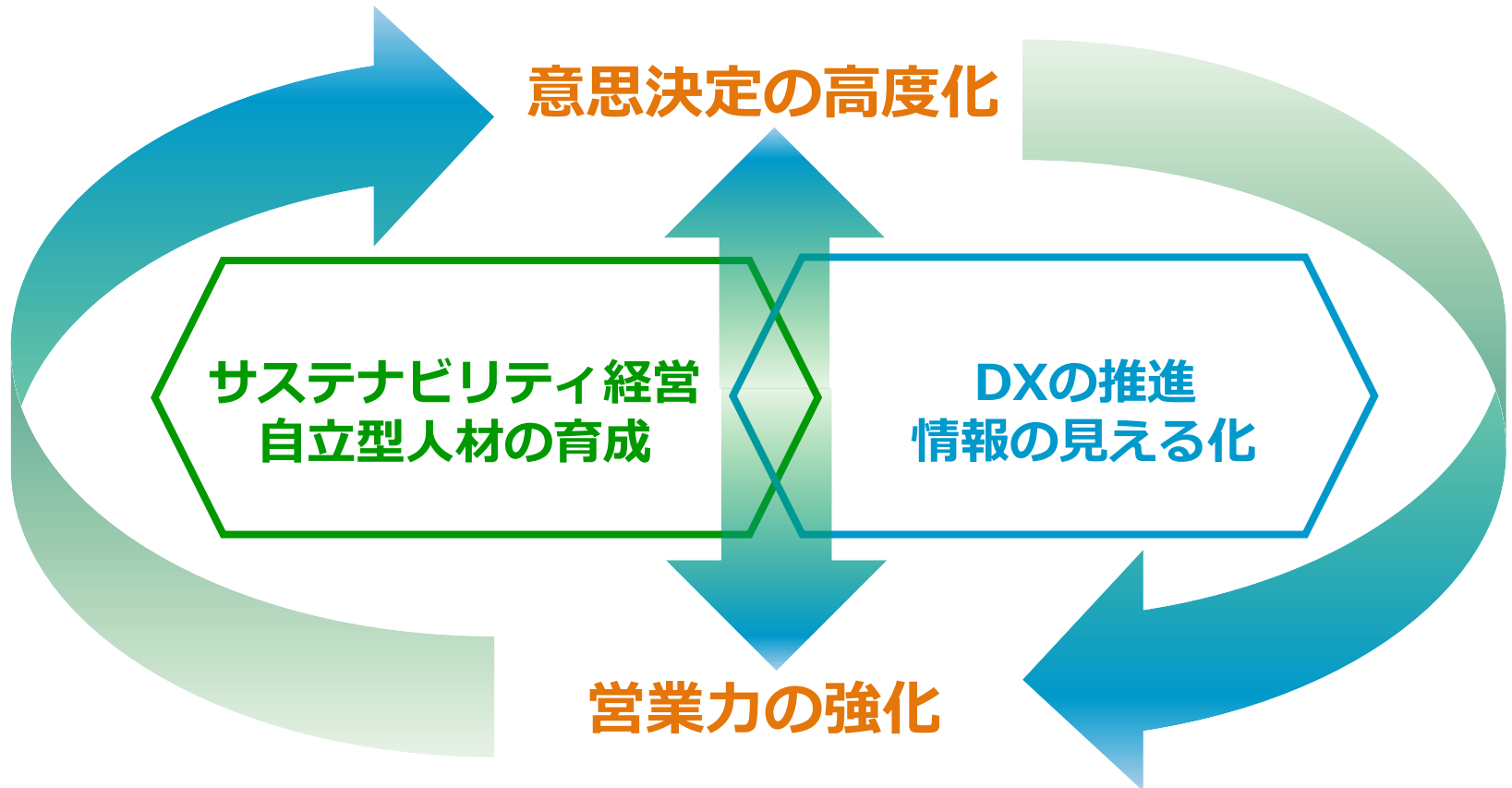
売上拡大

国内事業は成長の基盤（安定的に成長）、成長を牽引するのは海外事業
将来の成長基盤の育成として新事業の実現という方向性

中期経営計画2026：重要施策① 経営基盤の強化

サステナビリティ経営とDX化を軸に組織力を高め、経営判断を迅速化

- ・ サステナビリティ経営の推進(環境・社会課題解決への貢献、人的資本投資の強化、ガバナンスの充実)
- ・ ブランドイメージの社外浸透やインナーブランディングの強化のコーポレートブランディング
- ・ 「あらゆる情報の見える化」、「お客様との接点強化」を進めるためのIT活用を含めた営業活動の強化
- ・ データ化の推進、データに基づく意思決定の高度化



中期経営計画2026：重要施策① 経営基盤の強化

サステナビリティへの取り組み

企業価値の向上と持続可能な社会の発展に向けて、サステナビリティ基本方針に基づき優先的に取り組むべき10項目の優先課題(マテリアリティ)を特定、活動を推進

	優先課題	指標	具体的な活動内容	重点的に取り組むSDGs
「自然環境配慮」	高付加価値製品・技術の開発	市場投入件数	脱炭素・循環型経済へ貢献する製品の開発、提案 (次世代自動車関連製品等)	     
	カーボンニュートラルへの取り組み	温室効果ガス排出量	省エネ設備等の導入の検討 再生可能エネルギー利用の検討	
	省資源化への取り組み	超硬原材料リサイクル率	超硬原材料のリサイクル率向上	
		市場投入件数	省レアメタル新開発材料の市場展開	
		環境負荷物質の取扱量	環境負荷物質の管理(PRTR対象化学物質)	
	廃棄物のリサイクル率	廃棄物削減、リサイクル率向上		
「人権 / 労働環境」	人権の尊重	RMI※1 認定製錬所・精製所総数 およびその比率	紛争鉱物調査の管理	
		研修実施件数	国籍等に関係なく、公平な人財育成機会の提供 (自立型人財の育成)	
	労働環境の整備	作業環境管理区分1の拠点数	作業環境測定の実施	
		労働災害件数	安全教育、リスクアセスメントの実施	
		ストレスチェック実施率	従業員の健康管理	
	多様性を活かした働き方改革	健康診断の実施率	(ストレスチェック、健康増進プログラムの実施等)	
		フレックスタイム制度の利用率	多様なライフスタイルに応じた社内制度の充実 (フレックスタイム制度等)	
		女性管理職の比率 女性採用比率	女性活躍推進の取り組みの強化	
従業員との良好な関係性の確保	労使間の教育実施日数	社内報等を利用した労使間の経営理念、経営方針等の共有		
「ガバナンス強化 / 腐敗防止」	ガバナンスの強化	コンプライアンス、リスクマネジメント 委員会で開催したテーマ件数	コンプライアンス、リスクマネジメント体制の充実	
		サステナビリティ委員会で検討した テーマ件数	サステナビリティ経営の推進	
	危機管理対応の強化	知的財産教育の実施件数	知的財産基本方針に則った取り組みの強化 (保有する特許や技術、ノウハウなどの保護や流出防止等)	
		特許取得件数	国内外特許取得促進、自社権利正当行使および他社権利の尊重	
		情報セキュリティ教育実施件数	情報セキュリティ教育の実施	
コンプライアンス体制及び教育の充実	コンプライアンス教育実施件数	コンプライアンス教育の実施		

※1 RMI(Responsible Minerals Initiative):紛争非関与鉱物など責任ある調達を企業と連携して促進する国際団体。
RMIが提唱する「責任ある鉱物保証プロセス(RMAP: Responsible Minerals Assurance Process)」の監査を経て、認定。

中期経営計画2026：重要施策② 生産性向上・業務効率化

各部門における自動化・省力化、DX化等による業務効率化を推進

- ・ 国内営業部門における営業活動体制の再構築
- ・ 国内生産部門におけるロボット化等による自動化・省人化
- ・ 基幹システムの刷新、ワークフロー導入等によるデジタル化
- ・ 不採算製品の収益改善

【国内生産部門におけるロボット化等による自動化・省人化】

		自動化の実現	
効率改革活動（人的資本強化）		自動化の実現	
【2022年3月期-2024年3月期】		【2025年3月期-2027年3月期】	
効率改革活動 （人的資本強化）	ムダ作業削減・作業時間の標準化・映像による技能伝承 <ul style="list-style-type: none">● 社員の力量向上、平準化の取組みをデジタル化● 映像化から短時間で力量向上、社員育成できる仕組みを構築 <p>【前中計からの継続】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 継続的に作業分析から改善、施策実行・ 加工自動化に向けた加工条件を標準化・ 効率改革活動の全社推進	製造部門 原価率低減：3.0% 素材部門 生産性15%向上 （2024年3月期比）	
	自動化設備の導入 <ul style="list-style-type: none">● 自動化構想立案、自動化設備の導入（横展開）● 教育資料のデジタル化● 進捗管理のデジタル化● 暗黙知の技術知見のIoT化		

中期経営計画2026：重要施策③ 海外事業の飛躍

海外子会社と日本からの直接輸出の両輪で海外売上拡大を図る
アジア地域でのシェア拡大に加え、北米/インドにおける市場開拓を促進

- ・ 次世代自動車関連製品の積極展開
- ・ 商社や現地の加工メーカーとの積極的な協業による顧客開拓
- ・ インド・北米地域における拠点設置を含めた活動強化
- ・ 海外製造拠点の生産性向上

2027年3月期
目標海外売上比率：25%以上

インド

自動車部品および鉄鋼メーカーを主に受注増加傾向

<対応>

- 展示会活用による知名度向上
- 休眠再開に向け市場再調査中

中国

経済成長減速の影響もあり主要な電子半導体関連メーカーなどからの受注減少

<対応>

- 設立した東莞拠点における営業活動強化
- 潜在需要の大きいEV関連メーカーへの新規拡販強化
- 展示会活用による知名度向上

北米

一部の顧客好調により受注増

<対応>

- 潜在需要獲得のため新規拡販活動を強化
- 展示会出展による知名度向上
- 現地法人設立も視野に入れ市場調査中

富士模具：販売拠点（上海/東莞）

Fujilloy Thailand：生産/販売拠点

Fujilloy Malaysia：販売拠点
（ベナン/クアラルンプール）

Fujilloy Indonesia：生産/販売拠点

海外事業本部

アセアン

主要な自動車部品メーカーや半導体関連部材メーカーは生産調整などの影響により受注はやや減少傾向

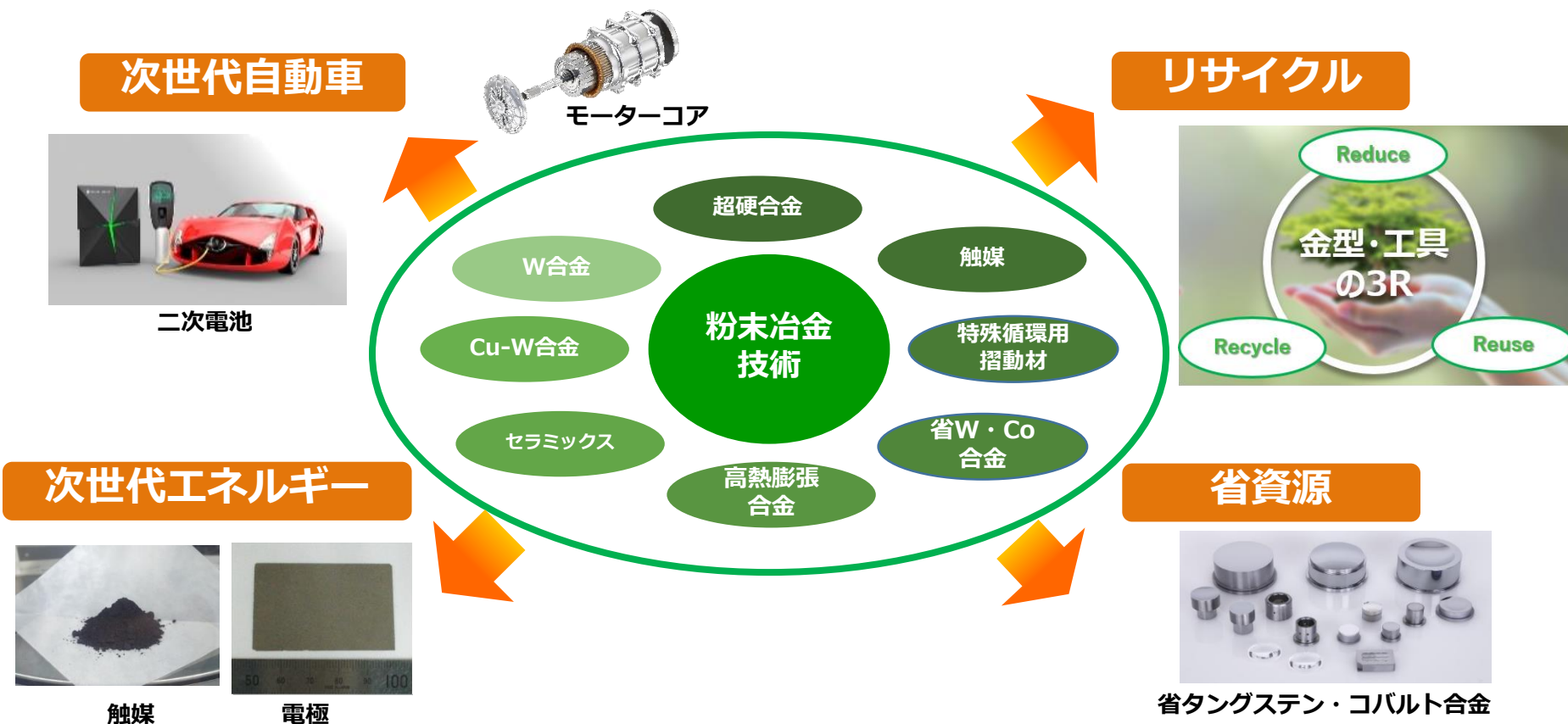
<対応>

- 主要な自動車部品メーカーや半導体関連メーカーへの深耕
- EV関連メーカーや未参入分野の市場開拓
- タイ及びインドネシア工場の生産性向上による競争力強化と収益性向上
- ベトナム/フィリピンにおける市場再調査

中期経営計画2026：重要施策④ 脱炭素・循環型社会への貢献

脱炭素・循環型社会の形成に貢献する製品を積極的に開発・市場投入

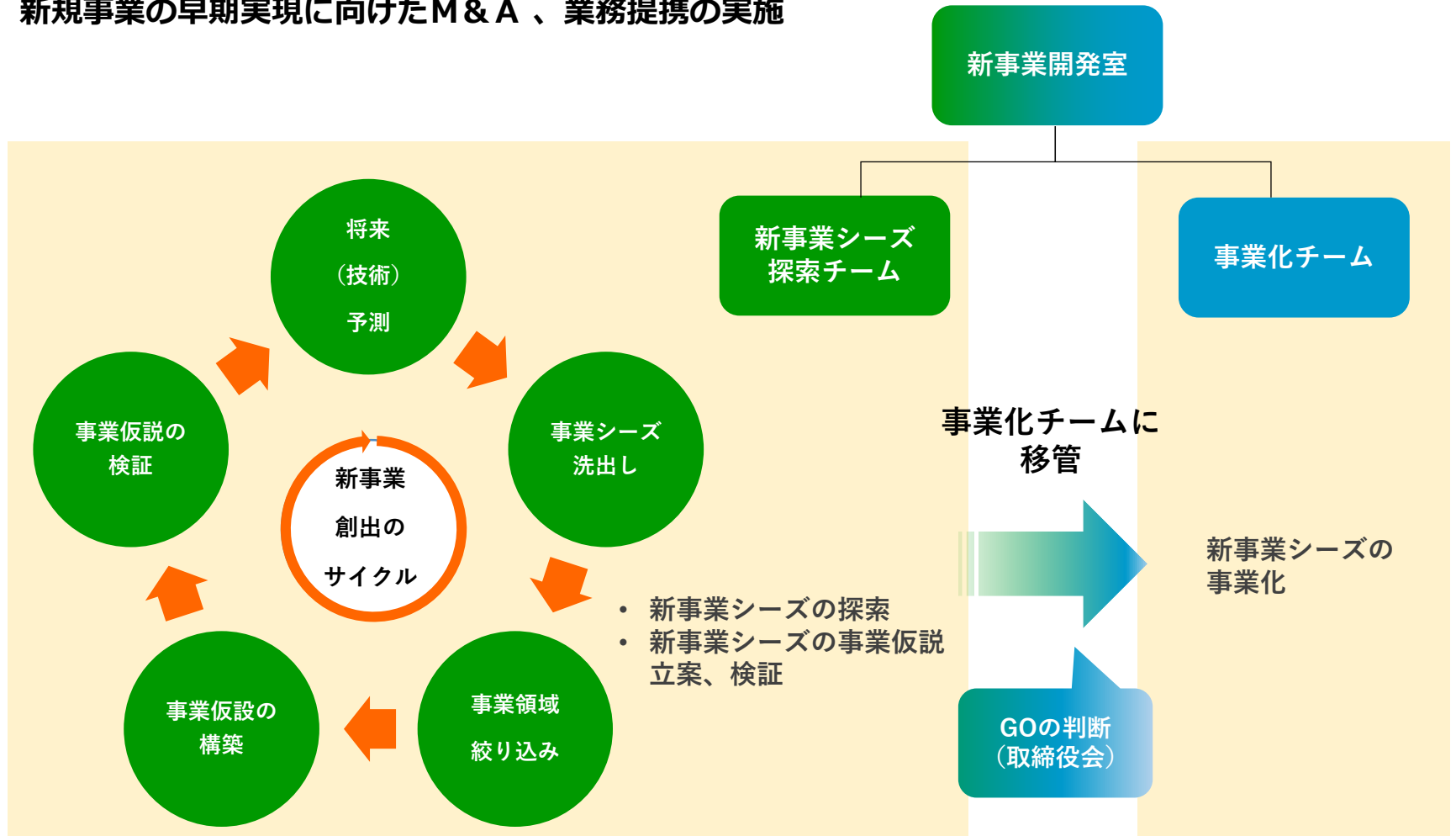
- ・ モーターコア用金型材種のラインナップ拡充
- ・ 次世代エネルギー分野に向けた水素発生用CO₂還元用触媒関連製品の開発
- ・ 省タングステン・コバルト合金の拡販
- ・ 超硬工具・金型のリサイクル強化
- ・ 温室効果ガス排出量の削減



中期経営計画2026：重要施策⑤ 新規事業の確立

100年企業を目指し、新規事業の専門組織を立ち上げ、新事業シーズの事業化を加速

- 新規事業組織を発足予定(2024年7月)
- 新規事業の早期実現に向けたM&A、業務提携の実施



中期経営計画2026 連結数値目標

【2027年3月期における連結数値目標】

連結売上高
200億円

営業利益
20億円

経常利益率
10.5%
(経常利益 21億円)

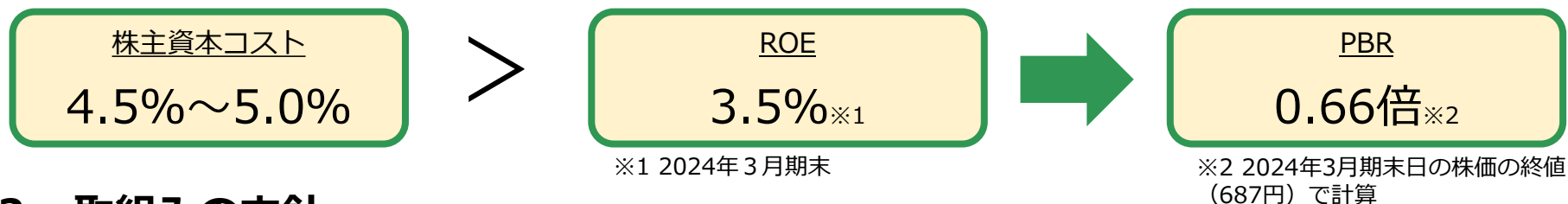
ROE
7.0%

	2024年3月期 実績	2025年3月期 業績予想	2026年3月期 目標	2027年3月期 目標
売上高	166.7億円	180億円	190億円	200億円
営業利益	8.0億円	10.2億円	15.0億円	20.0億円
経常利益	8.8億円	11.5億円	16.0億円	21.0億円
経常利益率	5.3%	6.4%	8.4%	10.5%
当期純利益	7.0億円	8.2億円	11.5億円	15.0億円
ROE	3.5%	4.0%	5.5%	7.0%

資本コストや株価を意識した経営の実現

1. 現状分析と課題

- ▶ 当社の株主資本コストは4.5~5.0%程度と認識 (CAPMで計算)
- ▶ 現状のROEは資本コストを下回っており、PBRも1倍を下回って推移
- ▶ ROEの改善と、PERの更なる向上が当社の重要な課題



2. 取組みの方針

- ▶ 「中期経営計画2026」に沿って「変化に対応できる企業体質への転換」を果たし、収益性や成長力を向上させる。



- ▲ 当期利益
- ▶ 業務効率化、海外事業の売上拡大による連結営業利益の増加
- 自己資本
- ▶ 株主還元強化による株主資本(投資)効率向上
- ▼

- ▶ IR施策の強化による認知度、理解度の向上
- ▶ 新領域への進出 (M&Aを含む) による成長力の強化

目標指標

- ▶ ROE目標は株主資本コストを上回る水準を設定。
- ▶ 「中期経営計画2026」期間中は、配当の基準を配当性向からDOE（株主資本配当率）に変更、安定かつ株主還元を大幅に強化。

指標	目標（2027年3月期）	2024年3月期
ROE	7.0%以上	3.5%
PBR	1倍以上	約0.66倍 ※2
DOE ※1	4%目途	2.1% ※3

※1 DOE（株主資本配当率） = (年間配当総額 ÷ 株主資本) × 100

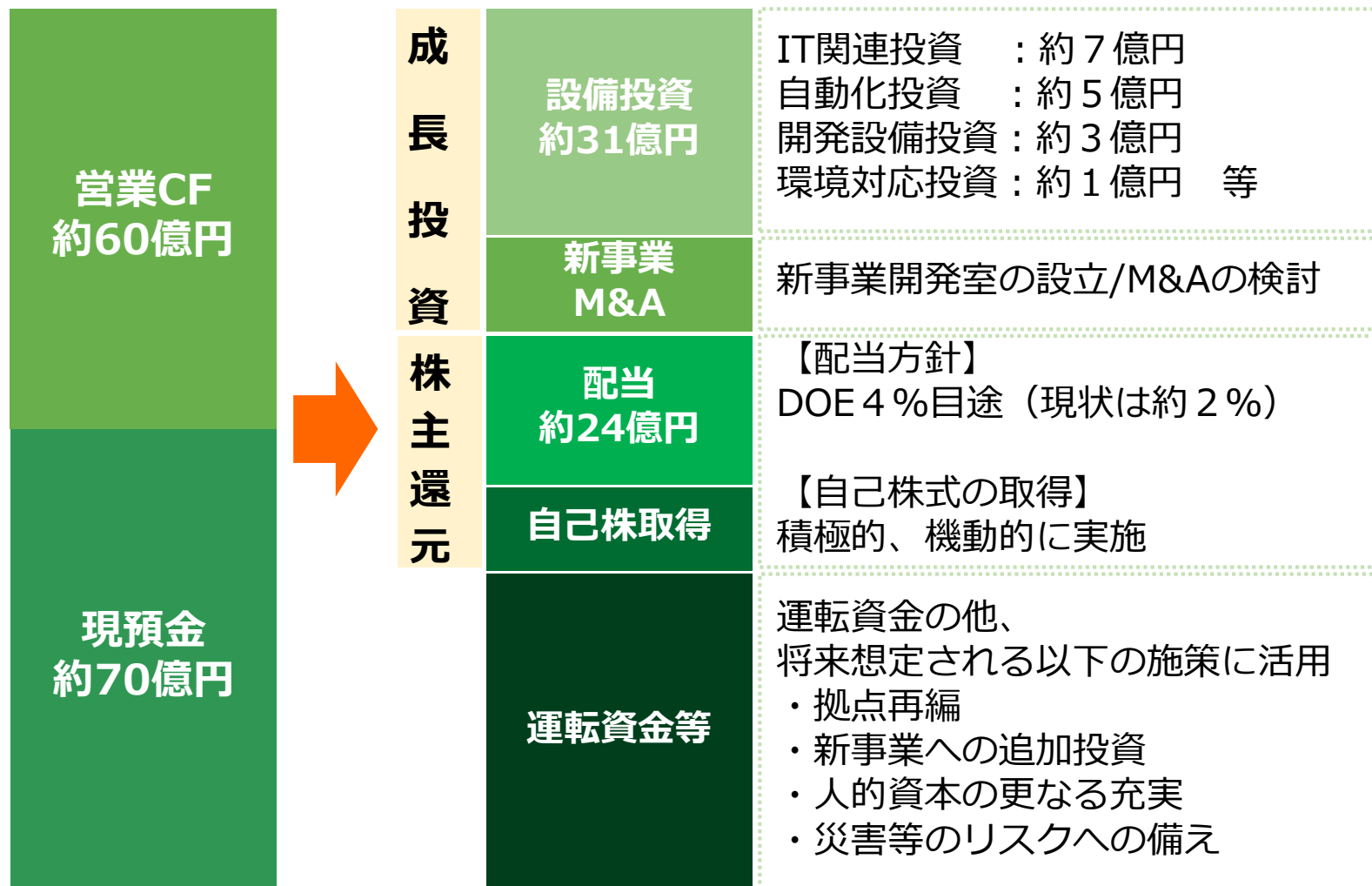
※2 2024年3月期末日の株価の終値（687円）で計算

※3 普通配当の金額で計算

記念配当（一株当たり10円）を含めるとDOEは3.1%。

資本政策 キャッシュアロケーション

- ▶財務の健全性を維持しつつ、成長投資と株主還元の両方を追及。
- ▶積極的なIT、自動化への投資で経営効率を向上させ、将来のキャッシュ創出能力を高める。



04

2025年3月期 業績見通し

2025年3月期 業績見通し

- 売上高は自動車部品関連金型の回復に伴う需要増、新規営業拠点東莞において、中国市場深耕での販売拡大を見込む。
- 営業利益は人件費増加やIT関連費用の増加はあるが、売上高の増加により対前年比26.1%増の10.2億円を見込む。

営業利益
10.2億円
(前期比26.1%増)

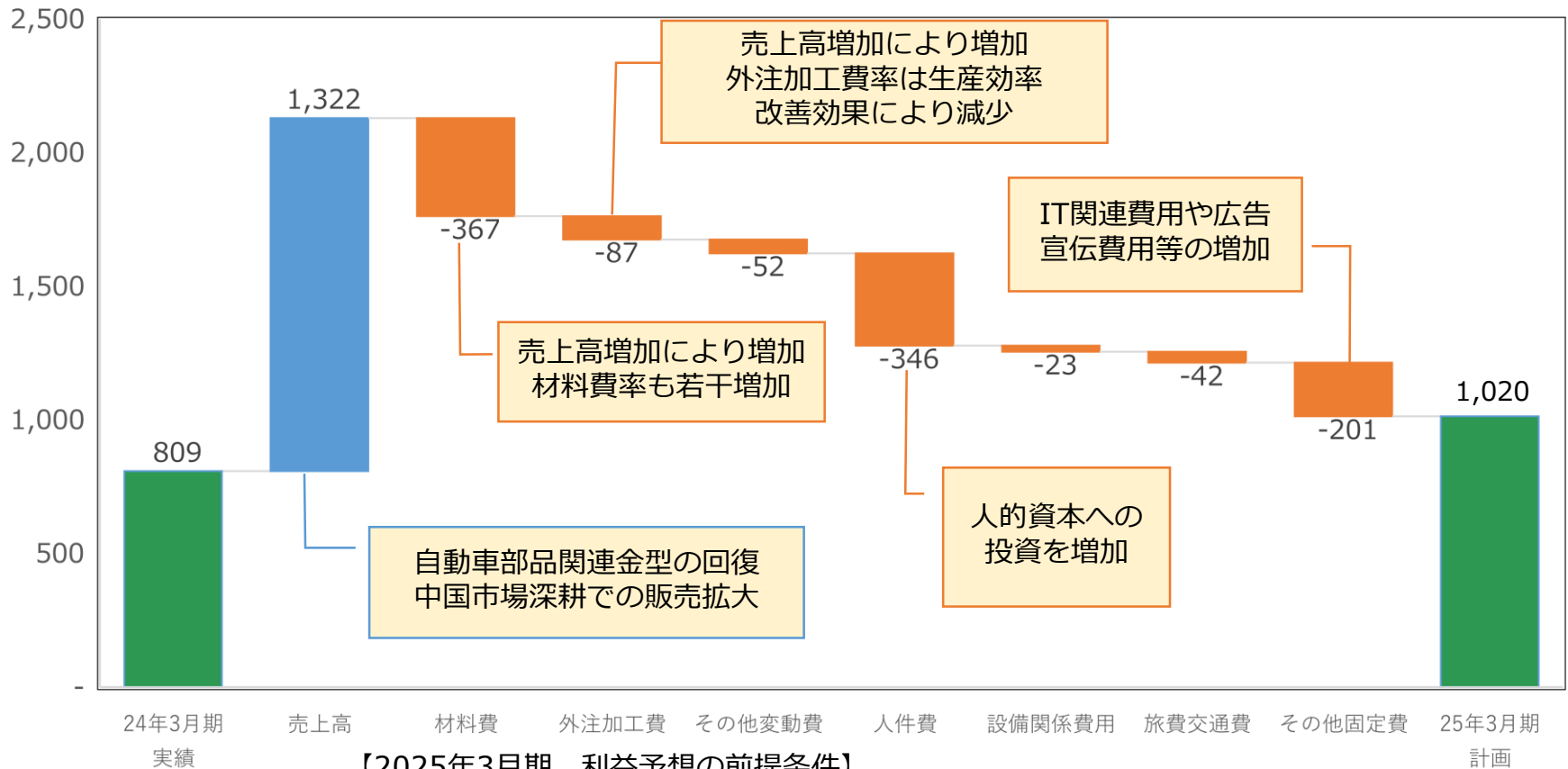
(単位：百万円)	2023年3月期 実績	2025年3月期 2Q業績予想	2025年3月期 業績予想	期末における 前期増減	期末における 前期増減率
売上高	16,678	8,800	18,000	1,322	7.9%
営業利益	809	470	1,020	211	26.1%
(営業利益率)	(4.3%)	(5.3%)	(5.6%)	(1.3%)	
経常利益	882	530	1,150	268	30.4%
(経常利益率)	(5.3%)	(6.0%)	(6.3%)	(1.0%)	
親会社株主に帰属する 四半期／当期純利益	709	380	830	121	17.0%
1株当たり 当期純利益	35.72円	19.13円	41.78円	6.06円	-
1株当たり配当額	32.0円	-	40.0円	8.0円	-
DOE	※2.1%	-	4.0%	1.9%	-

※普通配当の金額で計算。記念増配（一株当たり10円）を含めるとDOEは3.1%。

2025年3月期 業績見通し増減グラフ

営業利益：+211百万円

(単位：百万円/百万円未満 切り捨て)



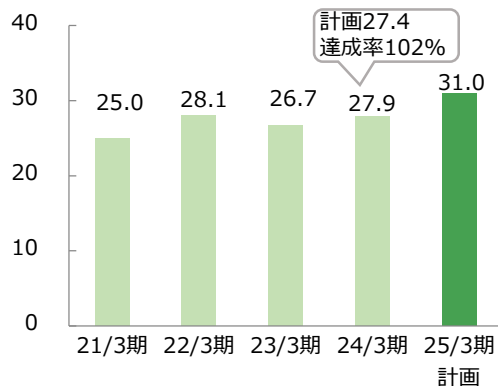
【2025年3月期 利益予想の前提条件】

- ①APT(パラタングステン酸アンモニウム) 価格：310ドル/10kg
- ②為替：150円/米ドル

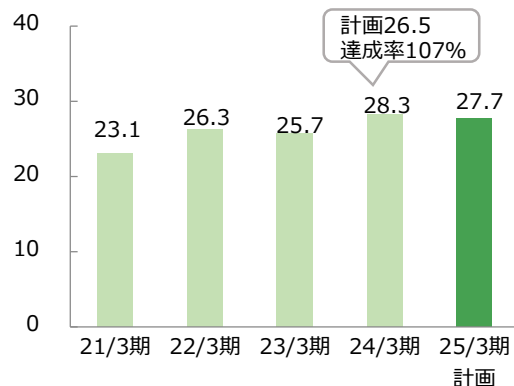
主要産業分類別状況（単体ベース、売上高）業績見通し（2025年3月期）

売上高（億円）

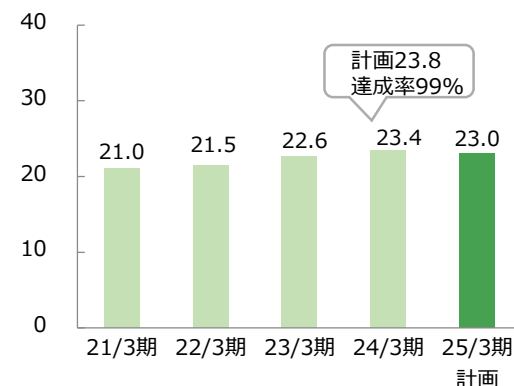
輸送用機械



鉄鋼



非鉄金属・金属製品



製品イメージ



鍛造金型



圧延ロール



製缶工具

事業概況

- 24/3期は、モーターコア用金型や対応製品が好調に推移。
- 25/3期は、次世代自動車の販売拡大により、引き続きモーターコア用金型や対応製品の売り上げ増を見込む。

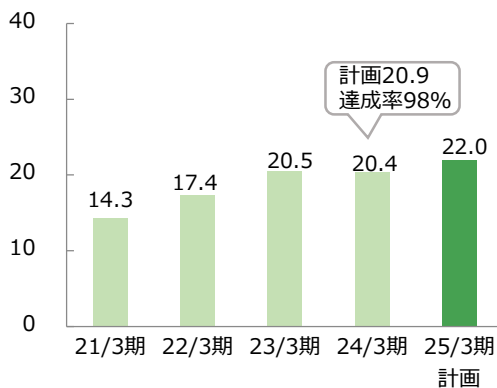
- 24/3期は、海外向けロールの特需により好調に推移。
- 25/3期は、自動車生産の回復や、ガス田開発等に伴う、鋼管用ダイス・プラグの需要増を見込む。

- 24/3期は海外向け溝付ロールが好調に推移。
- 25/3期は、海外向け溝付ロールの反動減が見込まれるが、耐アルミ関係製品の需要増を見込む。

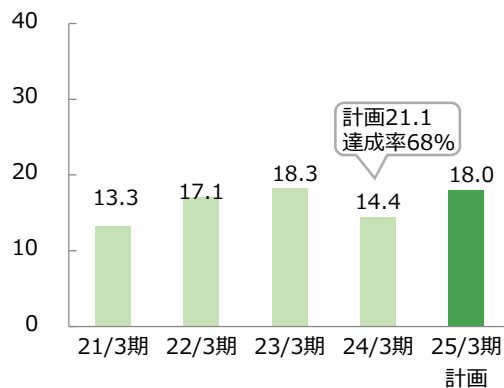
主要産業分類別状況（単体ベース、売上高）業績見通し（2025年3月期）

売上高（億円）

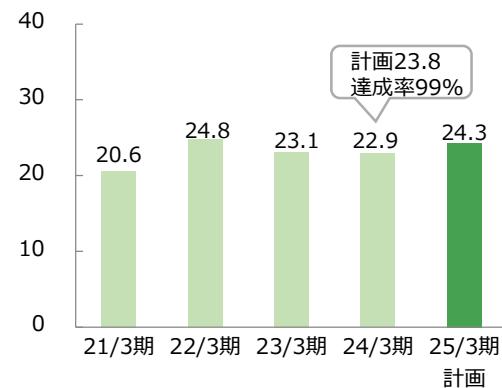
生産・業務用機械



電機・電子部品



金型・工具向け素材



製品イメージ



光学素子成型用金型



電池向け金型



金型・工具向け素材

事業概況

- 24/3期は半導体製造装置向けや光学素子向けの販売が好調に推移したが計画未達。
- 25/3期も半導体製造装置向けは堅調、光学素子向けは、市場投入した新材料の販売拡大を見込む。

- 24/3期は車載用電池向け製品の生産地変更に伴い需要が大幅に減少。
- 25/3期は、半導体用製品の需要持直し、車載用電池向け製品の需要拡大を見込む。

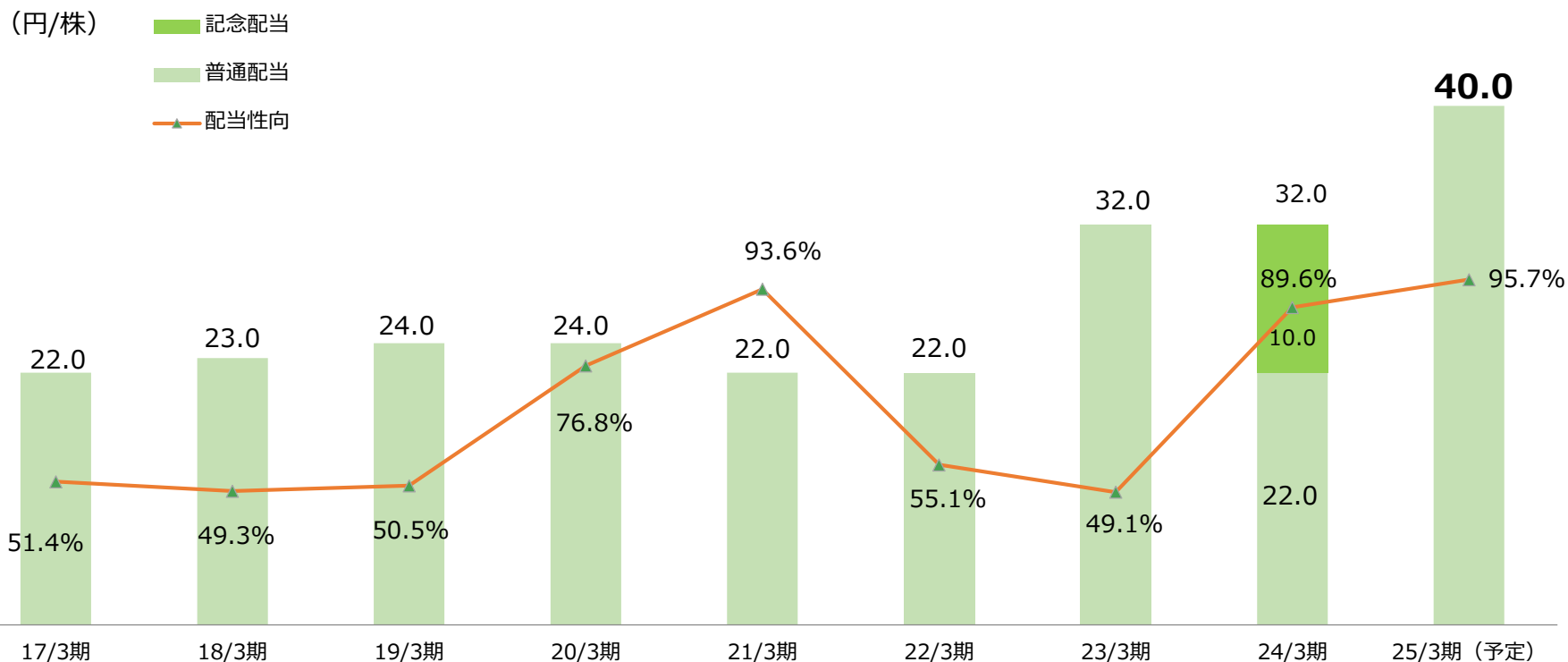
- 24/3期は、モーターコア金型向け素材の販売が増加傾向。
- 25/3期は、モーターコア金型向け素材販売拡大が継続。新規営業拠点東莞において、中国市場深耕での販売拡大を見込む。

2025年3月期 株主還元・配当

・ 2025年3月期は1株当たり40円
 【2024年3月期の1株当たり32円に対して、8円増配】

年間配当金
40円

配当方針の変更に伴い、2024年3月期の1株当たり32円に対して8円増配（普通配当で18円増配）の40円を計画



05

APPENDIX

会社概要（2024年3月現在）

商号	富士ダイス株式会社
所在地	東京都大田区下丸子二丁目17番10号
資本金	164百万円
代表者	代表取締役社長 春田 善和
創業	1949年6月
事業目的	超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造販売
連結子会社	新和ダイス株式会社 富士シャフト株式会社 FUJILLOY (THAILAND) CO., LTD. 富士模具貿易（上海）有限公司 PT. FUJILLOY INDONESIA FUJILLOY INDIA PRIVATE LIMITED FUJILLOY MALAYSIA SDN. BHD.
従業員数	1,106名（2024年3月期末時点、連結）

富士ダイスの企業理念・大切にしている価値観・長期ビジョン

企業理念

- ◆ 事業を通じて広く社会に貢献し、幸せな人を育てる
- ◆ 人間尊重、人間中心の経営

基本的な考え方（私たちが大切にしている価値観）

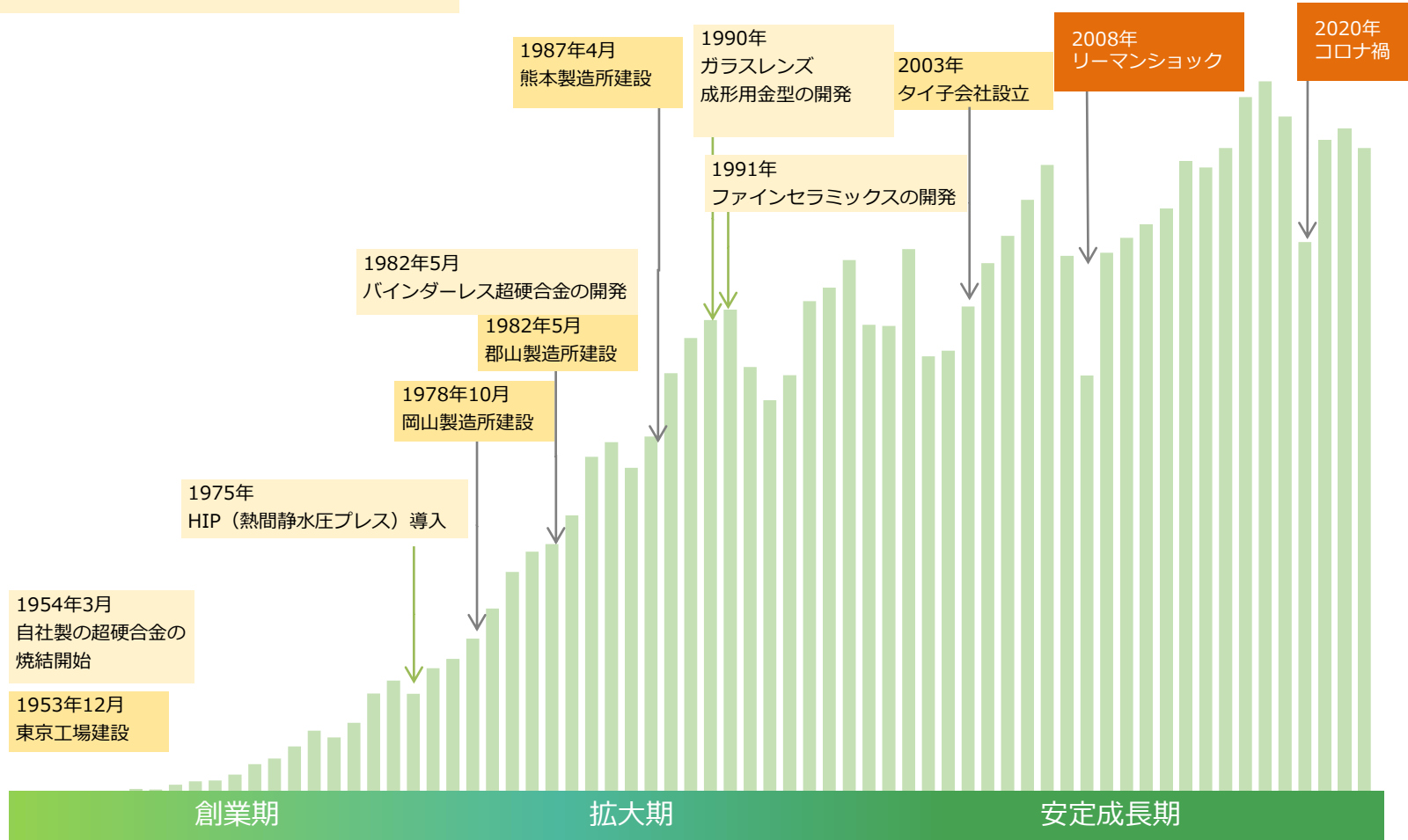
- 報恩感謝
- 和
- 創造と革新
- 誠実
- 質実剛健

長期ビジョン

1. 世界のものづくり界のリーディングカンパニー
2. 品性ある企業グループ並びに企業人

主な沿革と売上高推移

創業以来、黒字経営を継続



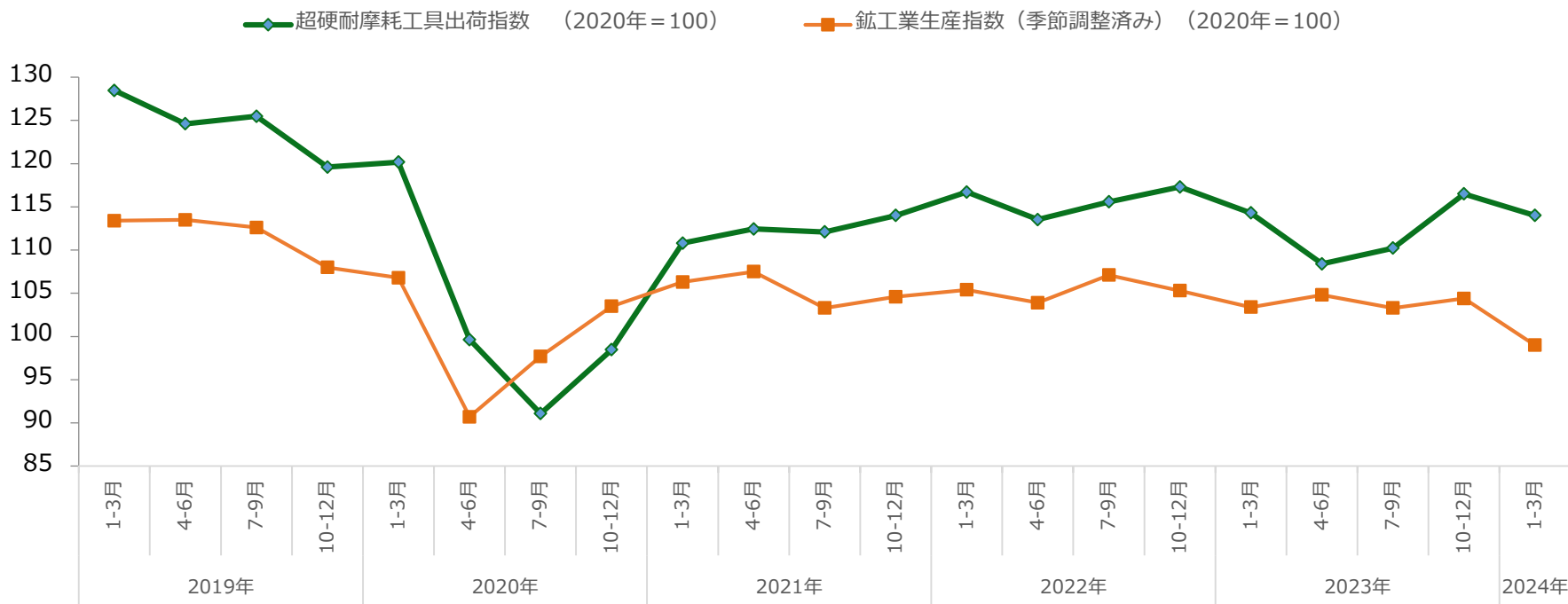
(注) 2012年度以降は連結売上高

2024年3月期第4四半期までの事業環境

鋳工業生産指数と超硬耐摩耗工具出荷

2020年度と比較すると回復基調にあるが、まだ両指数ともにコロナ禍前の水準には戻っていない

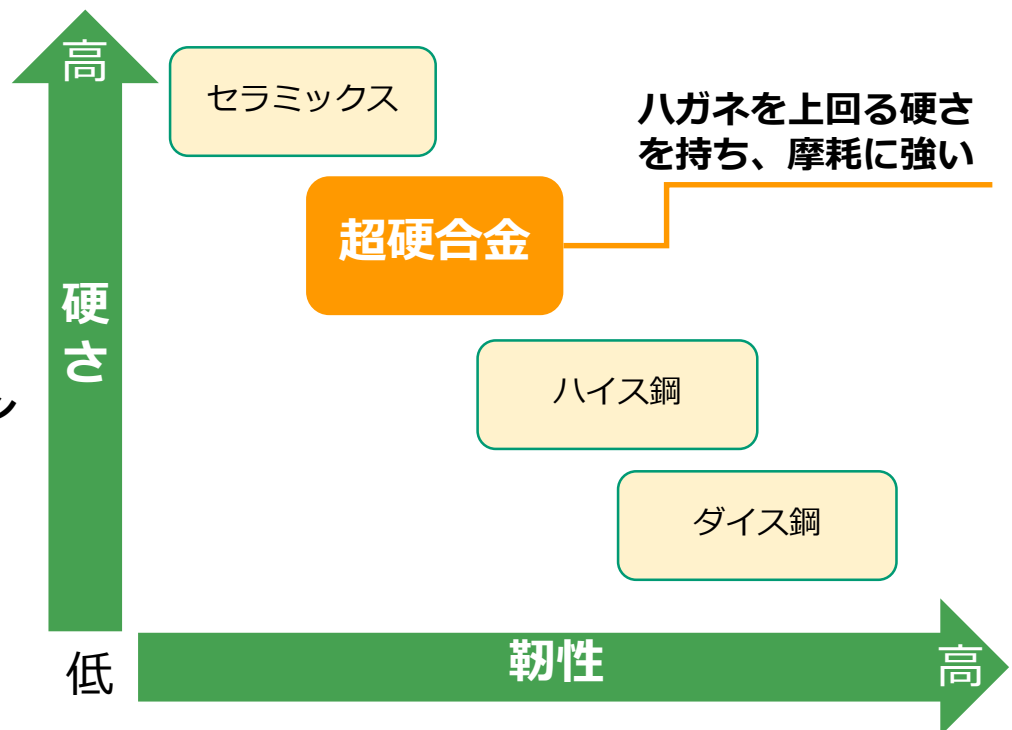
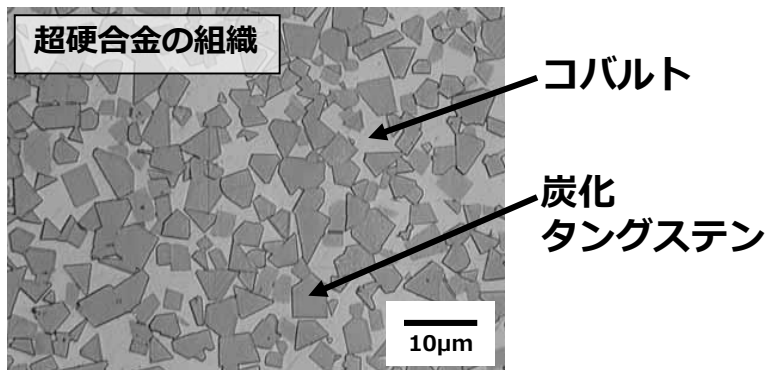
鋳工業生産と超硬耐摩耗工具出荷 指数推移



出所：日本機械工具工業会 『超硬工具統計』
経済産業省 『鋳工業指数』

超硬合金とは

- 炭化タングステンなどの**硬質炭化物**とコバルトなどの**金属**を組み合わせた**金属材料**
- ステンレスや鋼鉄を凌ぐ**硬さ**を誇り、**圧縮強さ**、**耐摩耗性**に優れる
- **変形しにくく**、高い精度が求められる**金型**や**工具の材料**として適している
- 金属の粉末を型に入れ圧縮して成型し、融点より低い温度で長時間焼いて固める「**粉末冶金法**」で製造される



代表的な製品例

引抜・押出・圧延加工をする工具

輸送用機械、建築材料やインフラ関連の設備等へ使用

当社製品



ダイス・プラグ



ロール

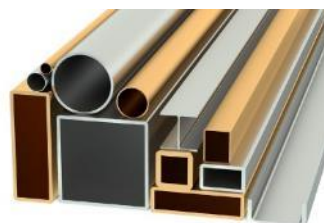
成形部材



パイプ



線材



异形管

最終製品例



タイヤ・エアコン・
鉄道架線他



インフラ設備

代表的な製品例

飲料缶・一般食缶を製造する工具・金型

アルコール飲料や清涼飲料等の飲料缶を作る金型

光学素子を製造する金型

一眼レフ・通信用・監視カメラのレンズを生産する金型

当社製品



製缶工具

最終製品例



飲料缶・一般食缶

当社製品



光学素子成形用金型

最終製品例



スマートフォンレンズ カメラレンズ



監視カメラ

代表的な製品例

鍛造用工具・金型

二輪車や四輪車、各種製造機械等の部品を作る金型

高圧工具

人工ダイヤモンドの製造、新たな素材の開発、地球の内部環境研究に用いる工具

当社製品



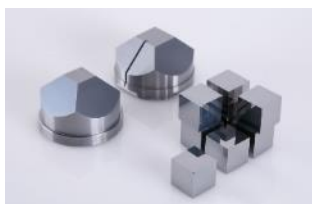
鍛造金型

最終製品例



自動車・各種機械用部品

当社製品



高圧工具

最終製品例



人工ダイヤモンド・
新素材開発

地球物理学研究

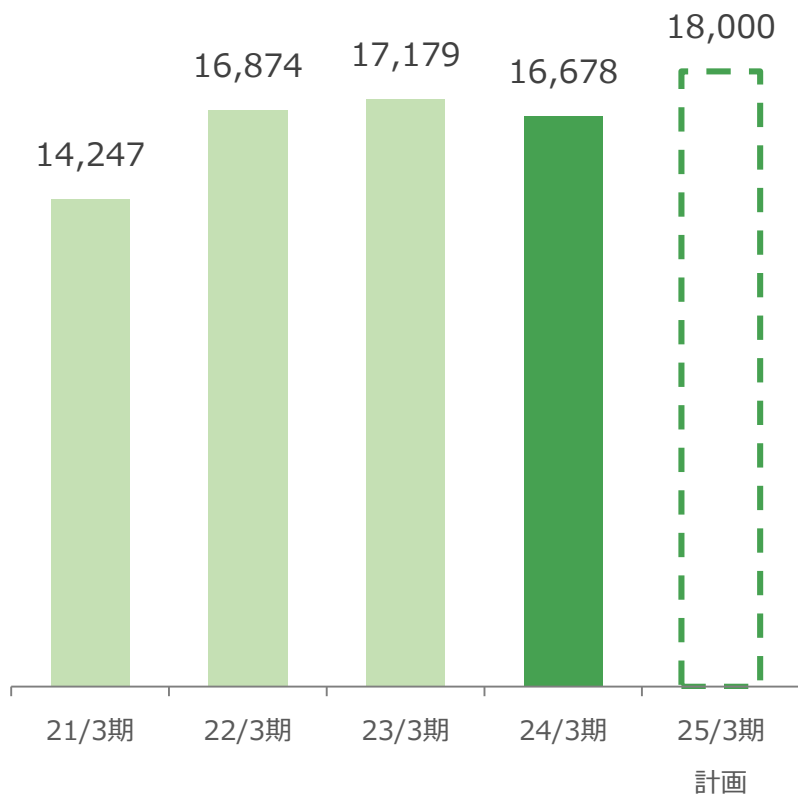
新製品開発・新技術開発に関する用語説明および開発の背景

分野	開発製品および技術	説明	開発の背景
医療・化学	・分析用デバイスとは？	樹脂やガラスなどの基板に微細な流路を形成した、チップ型の機能部品のこと。液体等を自由自在に混合・分流することができるため、分析等に用いられる。	デバイスの成型には鋼製の金型が用いられることが多いが、耐薬性に優れたガラス製デバイスの生産においては耐摩耗性が課題。 当社は、ガラス成型に向けた耐摩耗性の高い合金素材と超精密加工技術を活かして上記課題の解決のために研究開発を進めている。
	・分析用デバイス成型用金型とは？	分析用デバイスを成型するための金型。	
環境・エネルギー	・CO ₂ 還元用触媒とは？	二酸化炭素を、合成燃料や樹脂の原料に還元する反応を活性化させる触媒。	当社のコア技術である粉末冶金技術が触媒の合成に応用できることから、当社でもカーボンニュートラルな社会の実現に向けた技術として研究開発を進めている。
	・水素発生触媒とは？	水を電気分解し、水素発生を活性化させる触媒。現在は主として白金やイリジウムが使用されており、高コストや調達不足が懸念されている。	
	・省タングステン・コバルト合金とは？	タングステン、コバルトをほとんど使用しない耐摩耗性の高い合金。超硬合金と比較して軽量。	タングステンやコバルトが、資源として希少で中国等一部の地域に偏在していることを踏まえて、調達リスク軽減と軽量であることを活かした市場獲得のために開発。
光学	・TR合金とは？	熱膨張係数をガラス素材用に調整された耐摩耗性の高い合金。	ガラス素材を成型する際に、熱膨張係数の差によるガラス素材の損傷を防ぐことを目的として開発。
その他	・積層造形（3Dプリント）とは？	金属を積層することで様々な形状を作り出す加工方法のこと。	加工レス化による粉末歩留まりの大幅向上、無人稼働による効率向上等の実現のため開発を進めている。

業績の推移 1/3

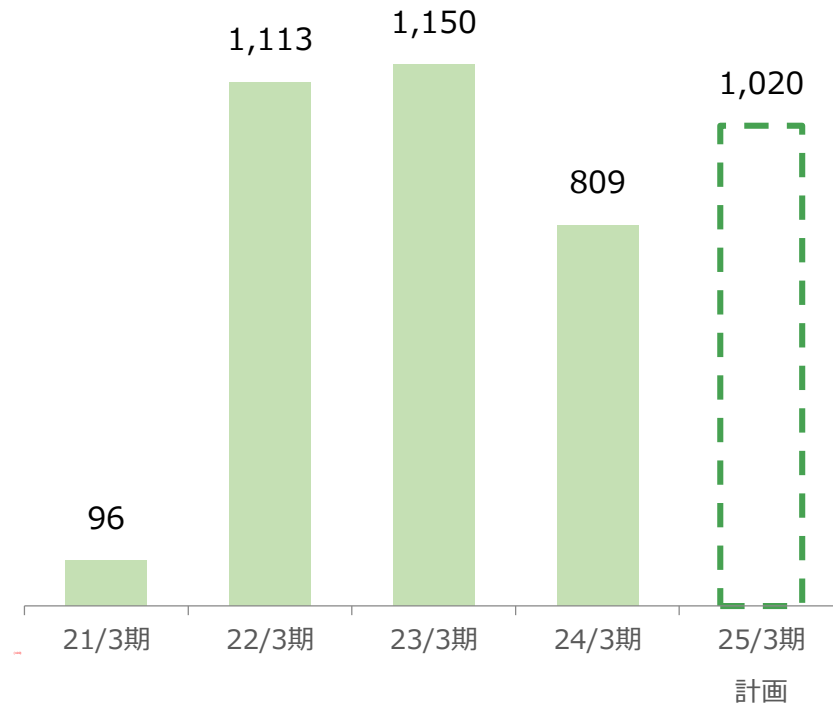
売上高

(百万円)



営業利益

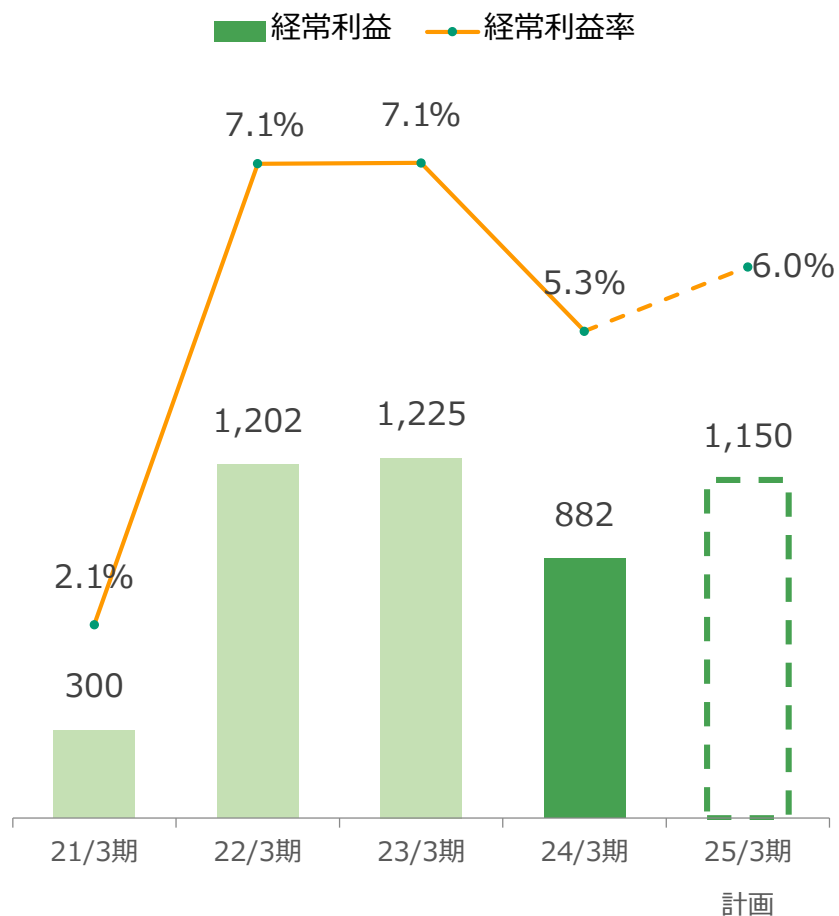
(百万円)



業績の推移 2/3

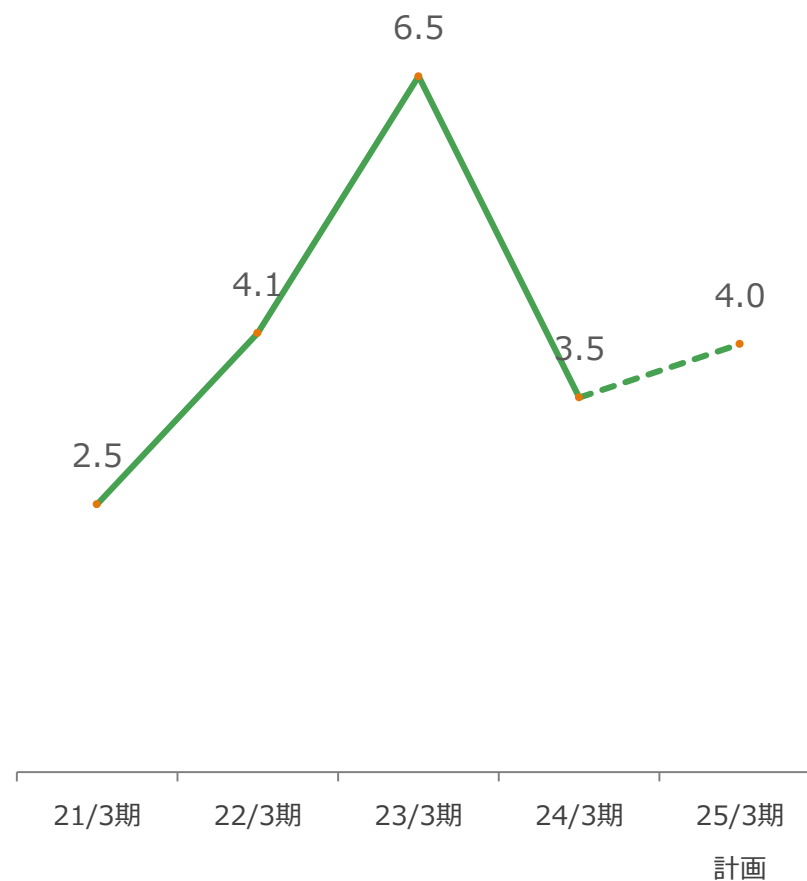
経常利益

(百万円)



ROE

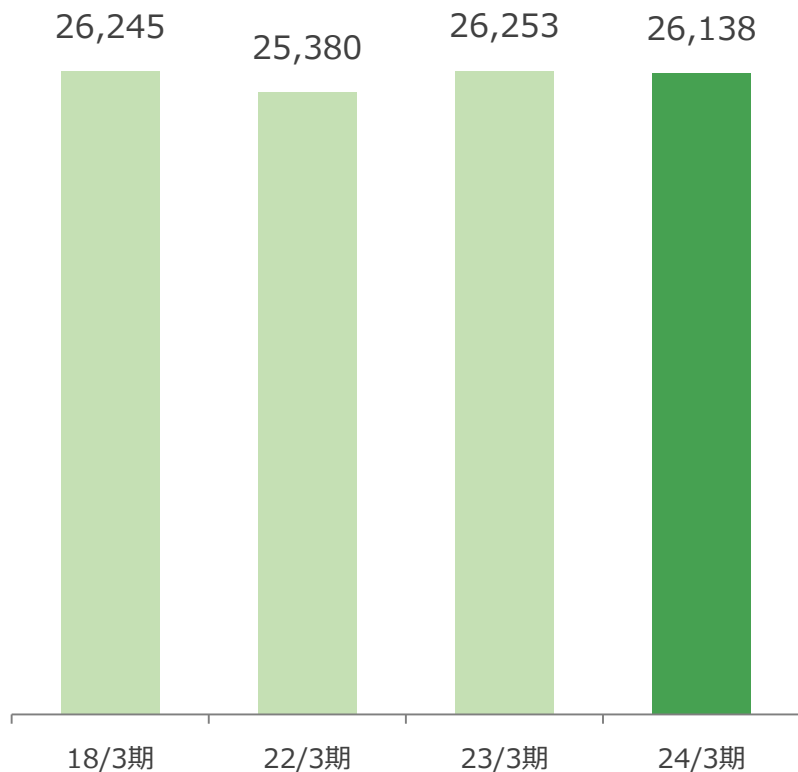
(%)



業績の推移 3/3

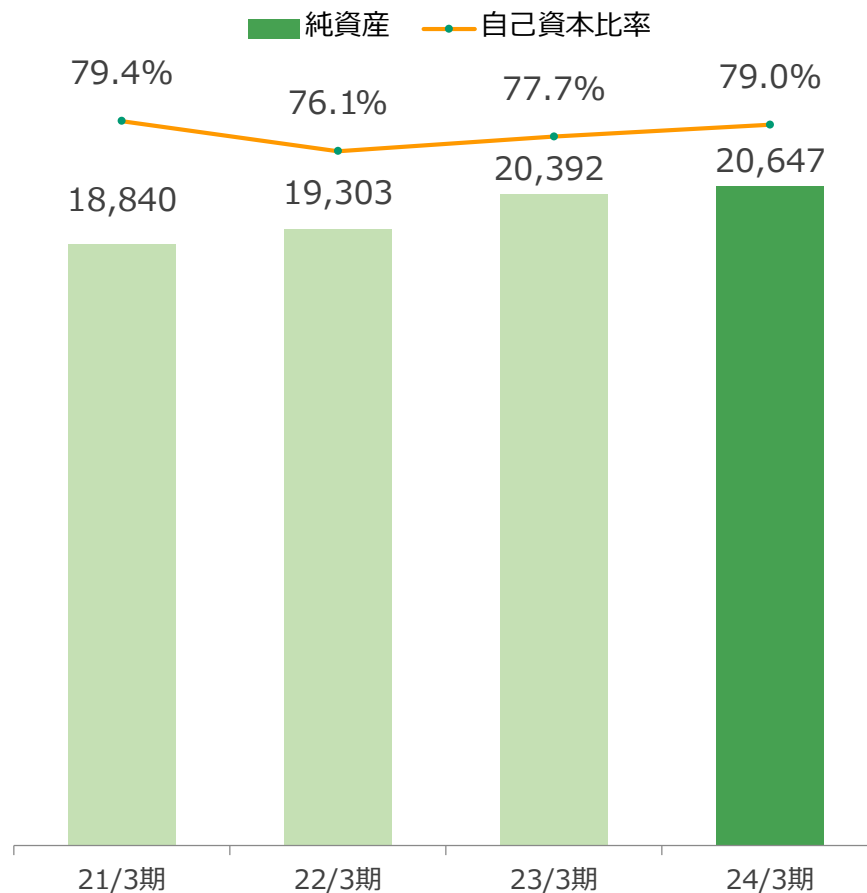
総資産

(百万円)

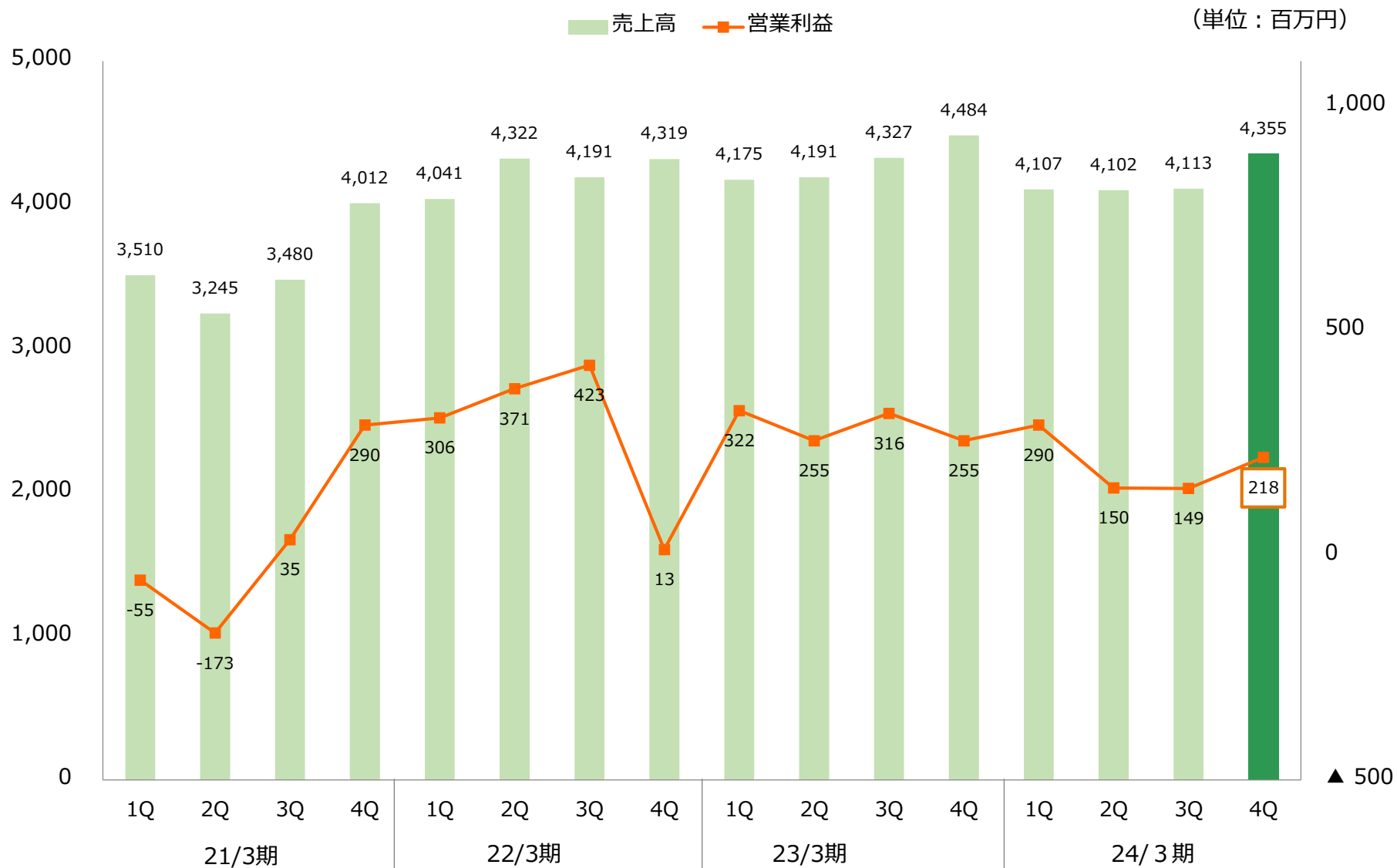


純資産

(百万円)



連結四半期業績推移



免責事項について

当資料は、富士ダイス株式会社の現状をご理解いただくことを目的として、作成したものです。当資料に記載した内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しており、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、当資料には見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものがあり、当資料に記述されている内容とは異なる結果を生ずる不確実性（市場、金利、為替の変動といった国内外の経済状況等）が含まれております。今後、新たな情報や出来事等が発生した場合、当社は本資料の更新・修正を行う義務を負うものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

尚、情報の掲載には細心の注意を払っておりますが、情報の誤りや改ざん、データのダウンロード等で被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。